

編集委員会から

Print or Perish?

印刷媒体の衰退は著しく、週刊誌や月刊誌が次々と廃刊・休刊されています。確かに、保存や二次利用の観点からは、印刷媒体よりはネット上のデジタル化された情報のほうが便利です。

人間の認識機構の見地からは、印刷されたものを読むときと、ディスプレイに表示されたものを見るのでは違うという研究結果があるそうです。米国化学工学会（AIChE）の会誌、Chemical Engineering Progress (CEP) 2018年5月号の“Editorial”では、この話題を“Print is not dead”という題で紹介しています。この記事では、人間の知覚・認識あるいは認知能力と印刷媒体との関係について、いくつかの事例に基づいて説明しています。結論は、もちろん“Print is not dead”です。

別の視点ですが、デジタル情報のWEBでの格納位置が深層にあり、さらにパスワード等の入力が必要であると、わざわざ読みに行かないという人のほうが多いと思います。このため、せっかく書いた原稿が著者以外誰の目にも触れないという事態も起こりえます。

ほとんどの学会誌では、著者がその雑誌に掲載された原稿を改訂して、他の雑誌に転載することを許可しています。今年度の1号から、化学工学会誌、化学工学会年会要旨集（印刷媒体なし）、食品工学会春季講演会要旨集から、著者に改訂をしてもらった原稿を小特集として日本食品工学会誌の1号から順次掲載していきます。市川創作編集委員（筑波大学）に、この特集を担当してもらっています。

今まで、日本食品工学会誌は継続的に各号に特集を組んだことはありませんでした。会員の皆様からのご意見お待ちしております。

（“Print or Perish?”という題に決めてから、検索してみると、同じフレーズでたくさんヒットします。内容は多岐にわたっているようですが。）

（山口大学 山本修一）



確かに食べながら読むのはデジタル情報のほうが楽かも……
本を読むときは背筋を伸ばしてとしつけられましたね。